

感染症ニュース

No.238 2025/02/28

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

日本での現在の流行株は JN.1 系統から変異した KP.3 系統や、さらに変異した XEC 系統が主流で、これらの株は感染力が強く、過去に感染歴があったり、複数回のワクチン接種で免疫があったりする人でも感染し発症する。若年層の症状は軽いですが、やはり高齢者は重症化しやすい。一方、JN.1 で作られた今期のワクチンは、流行中のこれらの株にも効果があると言われている。今後も高齢者の重症化予防のためには、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

インフルエンザ

全国的に注意報レベルとはなったが、A 型 (2009pdm) を中心に流行が続いている。A 型は感染力が強く、症状も激しく、脳症も起こしやすいので要注意。発熱などの症状出現から 24 時間以上経過しないと迅速検査キットで陽性にならないことが多いので、24 時間以上たってから検査してほしい。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、コロナ明けから高水準で流行が続いている。再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても 10 日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。昨年は、急速に全身に感染が広がって重症化する劇症型の発生が多く報告された。

感染性胃腸炎

ノロウイルスによる胃腸炎が流行しており、富山県内でも数件の集団発生があり、高齢者では死亡者も出ている。ノロウイルスにはアルコール消毒は無効なので、石鹸による手洗いを徹底する。潜伏期間は約 2 日である。

<今後、流行が懸念される感染症>

伝染性紅斑 (りんご病)

RS ウイルス感染症

マクロライド耐性百日咳

アジア（特に中国）を中心に昨年から百日咳が流行しており、その大部分で、従来は効いていたマクロライド系抗生剤（エリスロマイシンやクラリス等）が効かなくなっていて、生後間もない乳児で重症化や死亡者も出ている。日本でも、昨年から各地でマクロライド耐性百日咳の患者が報告されている。富山県でも最近、小児の百日咳患者の報告が複数あり、流行してきていると考えられる。日本での百日咳の定期ワクチン接種は生後2か月からなので、生後間もない乳児は免疫が無いため、要注意。